

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年1月18日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300693		
法人名	社会福祉法人 若葉会		
事業所名	グループホーム みのり園	ユニット名	
所在地	〒319-2214 茨城県常陸大宮市鷹巣2243-22		
自己評価作成日	平成23年2月19日	評価結果 市町村受理日	平成24年1月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年8月1日	評価確定日	平成23年12月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然に恵まれた環境の中で野菜を作ったり、お花を育てたりすることができる。育てた野菜は食材として食卓に並び旬のものを食することができる。
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所と同じ敷地内にある特別養護老人ホームや通所介護事業所と密接に連携しながら、行事や看取り介護、地域との交流を進めており、その総合力が利用者や家族等に安心を与えている。 通所介護事業所を利用していた方がグループホームに入居するケースも多く、利用者は住み慣れた地域の中で自宅で飼っていたペットと過ごすなど、自宅での生活スタイルを維持できるよう職員のチームワークで支援をしている。
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人間らしく生きること」を理念とし、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活を実現するように努め、利用者が主体的な決定行なえるように日々取り組んでいる。	「人間らしく生きる」という法人の理念とともに、「家庭的で落ち着いた雰囲気」、「地域との交流を大切に」というキーワードが入った事業所独自の理念を定め、ミーティングで理念を話し合い全職員で共有している。 利用者の残存能力を活かしながら自宅と同じペースで生活ができるよう支援するなど、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児、中学生等の訪問を受け入れたり、ボランティア、地域の老人会等と交流を活発に行なっている。	保育園児の来訪や中学生の体験学習を受け入れている。 地域のボランティアが頻繁に来訪し、利用者の生活を支援している。 利用者は地域の敬老会や老人クラブの集まりに参加し、地域住民と交流をしている。 地域住民である併設の通所介護事業所の利用者から、野菜や花などのお裾分けがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会等で交流をはかったり、園便りなどを発行して認知症の理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合ったことをサービス向上に生かしている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、外部評価結果や事業所の状況を報告している。 会議で委員から出た安全対策の提案などをサービスの質の向上に活かすよう努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	併設の施設を通して市町村と関わりを取り、協力関係をきづいている。	併設する介護老人福祉施設と連携し、事業所のケアへの取り組みなどを市に発信している。 市の後援を得て開催された市のグループホーム連絡協議会の研修会に積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束をしない方針を打ち出し、きめ細かな見守りにより併設する通所介護事業所に自由に行き来ができるよう支援するなど、身体拘束をしないケアに努めている。 外部研修報告を含めた身体拘束ゼロにむけた内部研修を年4回程度実施するなど、身体拘束廃止に向けて継続的な取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加し、職員間での意見交換を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解をしている。必要に応じて活用できるようになっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に分かりやすく説明している。また、ご家族の不安に答え、納得した上での署名捺印を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談、苦情の受付の体制が整っていることを説明している。玄関先に相談、苦情を記入する用紙と投書箱を設置している。	面会時の声かけのほか、無記名の家族アンケートを実施して意見や要望を気軽に出してもらえるよう努めている。 皁月鑑賞や師走会などの行事に合わせて利用者や家族等との食事会を開催し、意見や要望を汲みあげている。 家族等から出された意見や要望を全職員で話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の職員会議で職員の意見交換をして、サービス向上に努めている。管理者は職員の声に耳を傾け、意見を取り入れている。	管理者は月1回のミーティングで昼食時の休憩などに関する職員の意見や提案を受け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議などで個々の努力、実績勤務状況を評価している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や勉強会を開き話し合いを持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症に関する研修、勉強会に参加し、交流を深めサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家庭訪問し、本人の性格や情報を得ている。本人が困っていることや不安なことがあれば聞き取り、安心して頂けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の来園時に不安な事や要望をよく聞き、話しやすい雰囲気作りをし、信頼関係を気づくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族が必要としているものや状況を考慮し、サービスの検討を心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を生かし、個々の得意分野で活躍して頂けるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にみえた際に、本人の状況を報告して家族関係が良好になるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来られるように支援している。遠方の方は電話で話ができるようにしている。また、ペットを飼育している利用者も居る。	利用者の知人が来訪した際には、利用者と好きな場所で自由にゆったりと過ごしてもらえるように配慮をしている。 併設する通所介護事業所を利用して友人と自由に行き来ができるように支援をしている。 馴染みの理・美容室の利用や墓参りの希望を家族等に伝えるなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い同士が過せるように配慮している。また、孤立しがちな人は、職員が仲介にはいり、関わりを持てるように努力している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご自宅に戻られた利用者にはご家族に声をかけるなどして相談や支援に努めている。また、入院された利用者には面会に行き、ご家族と関わりをもっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人の自由を尊重し、見守りを行っている。	定期的なアセスメントを通して「脚力を強化したい」など利用者の思いや意向の把握に努めている。 利用者の行動や声の調子で思いや意向を把握しているが、明確な記録として残すまでには至っていない。	利用者の思いや意向の把握が個別ケアの出発点であることを再認識し、明確な記録として残すことが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の今までの暮らしを持続して頂けるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に、見守りを行い、個々の生活のリズムに合わせて一日の流れを作っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、必要な関係者と話し合いをもって、意見やアイデアを反映し、より良い介護計画を作成している。心身状態に変化があった場合は、その都度見直しをしている。	利用者を担当する職員が作成した介護計画案をもとに、ミーティングで家族等や医療関係者の意見を踏まえた話し合いを行い、正式な介護計画としている。 6ヶ月毎の評価をもとに介護計画を見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、再アセスメントを実施し介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やケース記録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望に応じられる体制が整っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園や地域のボランティアの訪問を受けて支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に利用者、ご家族の希望を確認し、かかりつけ病院や協力病院を受診している。入居前の関係が継続できるように対応している。	利用者の状況に応じて職員や家族等が付き添い、希望するかかりつけ医への受診を支援している。 家族等が付き添う場合は、利用者の普段の心身の状態を記載した「情報提供書」を家族等に渡している。 薬が変わったなど、受診後に家族等から聞き得た情報を申し送りノートに朱書きして全職員で共有している。 必要に応じて専門医療機関での受診を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の施設の看護師と密に連携している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、ご家族、施設と話し合い、早期退院ができる方向で話している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に見取り介護に関する指針の説明をして同意を頂いている。変化があれば、ご家族と相談し、病院を受診して話し合いをもっている。	看取り介護に関する指針を定め、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 併設する特別養護老人ホームの看護師や協力医療機関と連携を図りながら看取り介護を実施している。 看取り介護の際は、状況変化に応じた介護計画やケース記録を作成し、家族等の同意を得ている。 年4回実施する全体会議において、看取りに関する研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがある。また、救急救命講習会に参加したり、併設の施設と連携を取っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、併設の施設と避難訓練を行っている。	毎月併設する事業所と連携した避難訓練を実施している。 事業所を火元とする夜間想定も含めた避難訓練を年2回実施し、訓練で明らかになった課題を記録に残しているが、その対策を検討するまでには至っていない。 災害時における地域との協力体制を築くまでには至っていない。	避難訓練で明らかになった課題を検討し、改善に取り組むことが望まれる。 事業所だけの災害対応の限界を再認識し、地域住民との協力体制の早期構築が望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個々の生活に合わせて言葉かけや対応を行なっている。	利用者の誇りを傷つけないよう一人ひとりの個性を尊重するとともに、言葉かけや目線に気配りして支援をしている。 個人情報に関する書類は人目につかないよう、事務室のカウンター下の棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご家族からも意見や希望を聞いたり、本人の意思を尊重している。ご自身で思いが言い出しやすいような声かけをして自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしができるように見守りを行い、できないことを介助している。声かけし、話を聞いて、毎日張りのある生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ行ったり、移動美容室を利用している。衣類も好みのものを着用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で作った季節の野菜を収穫し、料理している。利用者と職員が一緒に食事を楽しみ、配膳や片付けは利用者と一諸に行なっている。	震災で調理設備の不具合が発生したため、現在は給食委託業者からの配食となっている。 自家菜園で収穫した野菜や地域の人々からのお裾分けを食材とした料理を献立に加えている。 利用者は一人ひとりの能力に合わせて、食事の準備や後片付けをしている。 行事で外出した際には、外食や弁当を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を作成し、毎食の食事量、水分量を記入している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら、歯磨きをする利用者は見守りを行い、介助が必要な利用者は一部介助している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表による個々の排泄パターンを把握し、時間にとらわれず、個々のサイクルで声かけ誘導を行っている。	利用者一人ひとりの24時間及び半月間の排泄を記録したチェック表で排泄パターンを把握するとともに、「そわそわする」など利用者一人ひとりの排泄サインを見逃さずにトイレ誘導をすることにより、おむつをしないケアに努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を記入し、何日排便がないかが一目で分かるようになっている。また、食物繊維の摂取や運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	車椅子を使用している利用者は機械浴の入浴となっている。個々の状態に合わせた入浴となっている。	基本的には週3日の入浴となっているが、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて毎日の入浴も可能となっている。 車いす使用の利用者に対しては、併設する通所介護事業所で機械浴を支援している。 菖蒲湯や林檎湯などで入浴が楽しめるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者、ひとりひとりの生活習慣に応じ、コタツでテレビを見ながら横になったり、夜間良眠して頂けるように日中は軽い運動を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用している薬リストがあるので、全ての職員が細かい情報まで把握している。介助の必要な利用者には、口の中に入れたり、手のひらに載せたり、飲むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴や仕事歴を生かし一人ひとりが活躍し、生甲斐に繋がるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物に行ったり、個人の買い物の同行をしている。また、行事でお花見やりんご狩り、外食会を行っている。	週3回から4回事業所周辺の散歩を支援している。 花見や林檎狩りなどドライブを兼ねた外出のほか、外食を兼ねた近くの公園への外出など、毎月のように外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの安心感を配慮し、金銭管理ができる人は所持し、買い物や病院受診など支払いを行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けてほしいと訴えがあった場合は、その都度対応している。携帯電話を持っている利用者は自由に使用している。また、年賀状を送っている利用者も居る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳、ソファがあり、個々の好きなスペースで過ごすことができる。また、季節の花を飾り季節感が分かるように工夫している。また、テレビの音量、湿度、温度も配慮している。	広々とした共用空間には家具調炬燵が置かれた和室やソファが配置されており、暖色系の照明と相まって、利用者がゆったりとした雰囲気の中で居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに設置してあるソファと畳部分、飲食スペースのテーブル部分等の共有空間のなかにも個人で過せる空間を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を使用し、好みの花や植物が置いてある。また、タンスや位牌を持ってきている人もいる。	利用者は自宅で使っていた衣装ケースなどの身のまわり品のほかに、位牌やテレビ、目覚まし時計、ぬいぐるみなどを居室に持ち込んでおり、職員は利用者がそれぞれの生活スタイルに応じた居室づくりができるように支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂等共有する場所には、表札があり、分かりやすくなっている。また、手すりが設置してあり、安全対策に工夫している。必要な方にはフットライトがついている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目標達成計画

事業所名 グループホームみのり園

作成日 平成24年1月12日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	9	利用者の行動や声の調子で思いや意向を把握しているが、明確な記録として残すまでには至っていない。	利用者の思いや意向の把握が個別ケアの出発点である事を認識し、明確な記録として残す。	利用者の思いや意向をペンの色を変えるなど工夫して、明確な記録として残している。	達成済
2	13	避難訓練で明らかになった課題を記録に残しているが、その対策を検討するまでには至っていない。災害時における地域との協力体制の構築が望まれる。	避難訓練で明らかになった課題を検討し、改善に取り組む。地域住民との協力体制の早期構築。	避難訓練で明らかになった課題を職員会議で、話し合い改善している。地域の緊急連絡網を作成した。	達成済
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。